



五小だより



五小ブログ



五小ボランティア

7月号

令和7年6月30日(月)

国分寺市立第五小学校

042-322-0045

校長 齋藤 晃

ひまわりと共に、地域の方々と共に、校長 齋藤 晃

梅雨の合間には、夏至の太陽が強く照り付け、今年も猛暑の予感です。先日は6年生が日光移動教室に出かけて、2泊3日全ての日程を無事に終えて学校へ帰ってきました。7月に入り、学校は1学期のまとめの時期となります。

さて、今年も5月に本校の3年生の子どもたちが、「国分寺学」の取組として、ひまわりの種を、日吉町1丁目にある森田 林三(りんぞう)様のブルーベリー畑の一角にまいてきました。これは、犯罪の無い明るい街づくりや、安全で安心な明るい地域社会を築くことを目指して法務省が主唱し、国分寺市役所も委員会を設置し推進している運動、「社会を明るくする運動」の一環で、本校の3年生も参加させてい
なぜ“ひまわり”? 青少年が太陽に向かって咲くひまわりのように明るく強く成長してほしいとの願いをこめて、
昭 and 46 年から”ひまわり”は「社会を明るくする運動」のシンボルマークとなっています。参考: 法務省 HP

7月中旬になると、3年生はまた畑にお邪魔して、ブルーベリーの収穫体験や、自分の背丈よりも高く育ったひまわり畑の迷路を楽しませていただきます。

種をまいている子どもたちの姿を見ながら、森田さんは「こうやって種をまいた子たちが、学校の帰りなんかに畑を覗いて、手を振ってくれるんだよね。子どもは地域の宝だね。」と、眼を細めておられました。そして「ひまわりが花を咲かせてそのあとに種をつくって、茎や葉なんかは土の肥やしになって、種がまた芽を出して次のひまわりに命が受け継がれていく。この子どもたちもまた大人になって、その子どもに、この地域で体験したことが受け継がれていくんだよね。」とおっしゃっていました。

森田さんは、平成の中頃からこのような取組をされているそうです。数年前には、小さな子どもを連れた若いお母さんが「私も子どもの頃、学校でここに来たんです。」と言ってブルーベリー畑に来園したこともあったそうです。

本校では昨年度から、市内他校同様に「国分寺学」=人と学びが循環するまちを目指して、「子どもたちが地域に親しみ、地域に学び、地域を考え、地域に貢献する」ことを目的とした学習に全学年で取り組んでいます。そして地域には登下校の安全など、子どもたちをあたたく見守ってくださっている方々がたくさんいらっしゃいます。

今、森田さんの畑では、子どもたちが植えたひまわりが、大人の膝上あたりまで育っています。これから夏に向けてたくましく、大きく育ち、真夏には大輪の花を咲かせることでしょう。本校も地域の方々と共に、子どもたちをたくましく、大きく育てていきます。そしてまたいつの日か、このひまわり畑の体験をした子どもたちが大人になって、自分の子どもを連れてこの畑を訪れる日が来ることを願っています。

今年も暑い夏となりそうです。保護者、地域の皆様におかれましては熱中症などにお気を付けいただき、健康にお過ごしください。そして少々早いですが、7月20日(日)から学校は夏休みを迎えます。全ての子どもたちが安全で楽しく、充実した夏休みを過ごせるよう、ご理解とご協力をお願いいたします。

1 学期保護者会日程 各学年ともに、14:45～ 各教室で行います。

7月 2日(水) 3年・6年

7月 4日(金) 1年・5年

7月 8日(火) 2年・4年

東昇降口からお入りください。ネームプレート、上履き、下履きを入れる袋の用意をお願いいたします。